

旧岡山県農学校 現高松農業高校地域向け情報誌

# 備中高松城下町かわら版

http://www.takano.okayama-c.ed.jp/

第 43 号

平成 20 年 3 月 XX 日

発行元  
岡山県立  
高松農業高校  
tel 086-287-3711  
fax 086-287-3713

## 【朝礼台】

年度を締めくくり、新年度へ

渡邊領治

三月一日土曜日、平成十九年度第百九回卒業証書授与式を挙行し、百八十五名の卒業生が本校を巣立っていききました。私からは、メッセージの「青い鳥」の話を引用し、「人生は絶え間ない選択の連続で、時として、不本意な境遇や望んでいなかった状況に置かれることもありますが、そんな逆境にある時、過去の選択を悔やみ不平不満をこぼして過ごすのか、現実の自分の居場所を自覚し今を懸命に生きようとするのか。その態度によって、この先の人生が大きく変わってくる。『幸せはここにある』という言葉をしかり心に留めて、自分の可能性を信じ、さまざまな場面に挑戦していつて欲しい」と、はなむけの言葉を贈りました。その後の校歌斉唱の歌声には、三年間の学業をなし終えたという自信と誇りがあふれていました。三年間で生徒一人ひとりが個性を持ち、「いい顔」をして卒業していったと思います。

さて、現在学校では、この一年間の締めくくり業務と次年度に向けて経営方針の確定に取りかかっています。「地域に開かれた信頼される学校づくり」を目指してこの一年間色々な取組を行ってきましたが、年度の節目で評価し、新たな年度の取組への発展につなげたいと考えています。来年度もよろしくお願いたします。

## 文部科学大臣優秀教員表彰

全国の国公立学校における実践等に顕著な成果を上げた者として、本校の山村修教諭が表彰された。本表彰制度は平成十八年度から実施しているもので今回で二回目となります



文部科学大臣  
表彰を受けた  
山村修先生

園芸科学科の草花ハウスでは、ここ数日の温かい日射しの中、赤、白、紫、ピンクなど色とりどりのサイネリアが咲いている。



サイネリア - Cineraria - 冬から春にかけての鉢物として代表的なもので、窓辺を飾る色鮮やかなサイネリアはなくてはならない花である。花期が長く花が株を覆うように咲き、見応えがある。

花言葉は『いつも快活・喜び・心の強さ』

十二月十四日の誕生花

## 旅立ちの百八十五名

二月一日、岡山県教育委員会より古代吉備文化財センター高畑所長、本校同窓会原会長を始め多数の来賓を迎え平成十九年度第百九回の卒業式が本校体育館で、厳粛に挙行された。来賓、保護者、在校生、教職員らの拍手の中、三年間の思い出を胸に、緊張した面持ちで卒業生が入場式が始まった。

卒業生の喜びはもちろん、立派に成長した我が子の晴れ姿を目のあたりにより、保護者の方々も感慨ひとしおのことと思われる。

卒業証書授与、校長式辞、来賓祝辞と進み在校生代表による送辞、卒業生代表の答辞の頃になると、感極まって涙をぬぐう卒業生の姿も見られた。最後に蛍の光、校歌を歌い、拍手で送られながら一人一人明日からの新しい人生に向かって旅立って行った。



## 就農予定者激励会（つくし会賞）

二月二十九日、平成十九年度の就農者並びに就農予定者の激励会が行われ、一名の就農者と十名の就農予定者に賞状と記念品が贈られた。

この会は、本校の卒業生で久米町（現在の真庭市）で立体農業の研究をされていた久宗壮先生が「農業を志す後輩の励みになれば」と寄付金を寄せられ昭和四十一年に始まった。その後毎年高額な寄付金が寄せられた。当時は久宗先生の名前をつけて「久宗賞」としていたが、その後先生が亡くなり昭和五十九年「つくし会」と改名された。また、同年から「卒業後就農しよう」とばつている卒業生に激励しよう」と就農奨励賞が設立された。

久宗賞設立から平成十九年までに五百十八名が受賞している。また、就農奨励賞も百四十一名に達している。

## パテントコンテスト入賞

大豆発酵食品「テンペ」を使ってチーズのうま味を高める研究で、生物工学科三年の中田拓也君と食品科学科二年の清廣まりなさんが、平成十九年度の国のパテント（特許）コンテストで入賞し特許庁に特許を申請した。

文部科学省や特許庁が主催したコンテストで、高校部門は本年度百八十七件の応募があり、国が特許申請を支援する入賞は本校など六件が選ばれた。

研究は、チーズづくりの課程でうま味成分アミノ酸を多く含むテンペを添加すると、濃厚な味が生まれ、成熟期間も短くできるという内容で、卒業生が取り組んでいた研究を基に、夏休みから二ヶ月近くをかけて仕上げたものである。

